三宅管内の遺伝資源の収集・評価・保存

【研究概要】

地域資源の収集・評価・保存を進めるとともに、パッションフルーツやレモン類等の栽培技術の確立に取り組む。

（１）パッションフルーツの施設栽培において、結果枝本数を制限し定植本数を増やすことで、１樹当たりの収量は低下するものの、10a 当たりの収量及び１果重が向上することを確認した。また、小規模ハウス向けに東京エコポニックを活用した栽培システムを開発した。

（２）サトイモ「赤芽」の種芋分割育苗技術について検討した結果、慣行栽培と同等の収量及び収穫芋の規格が得られ、効率的な増殖が可能であることが確認された。

（３）ヒサカキの種子を紙やすりで研磨し、蒸留水に一晩浸漬することで、発芽率を高められることを明らかにした。

（４）施設栽培におけるレモン類３品種について調査した結果、垣根仕立てでは「ユーレカ」、開心自然形では「リスボン」の樹の生育が優れた。また、垣根仕立ての「リスボン」は面積当たりの収量が最も多く、Ａ品率も高かった。